

議会報告会報告書（前半）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:00～19:50
開催場所	庄内地区公民館（大会議室）
出席議員	若林真一、吉村幸代、井口司朗、上條美智子、田口輝子、中島昌子 犬飼信雄、小林弘明、阿部功祐、忠地義光、柿澤 潔、青木豊子、 南山国彦、太田更三、池田国昭
参加人数	51名
議会の活動報告に対する質疑	<p>Q：庁舎建て替えに合併特例債を平成17年から10年間使えるとあった。東日本大震災があり、さらに5年間延長された。事業費の95%のうち70%が交付税で国からくる。使わないと市民一人当たり66,000円の負担増になる。どうして合併特例債を使わなかったのか。</p> <p>A：合併特例債が使える期間に間に合えばよかったが、市として様々な事業があり時期的に使うことにはならなかった。まだ、庁舎建て替えの話がでてこなかったということ。今後、国の補助金を取り込めるように検討する。</p> <p>Q：市役所庁舎は耐震補強をしてあるのに、今年急に建て替えの話が出てきたが、市民の声を聴いていない。新庁舎建設場所検討委員会の委員は市長が決めた人。</p> <p>A：耐震補強をしても耐用年数は変わらないので、ご理解を。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年11月24日

上記のとおり報告します。

報告者 南山 国彦

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:55～20:42
開催場所	庄内地区公民館（大会議室）
出席議員	南山国彦、田口輝子、忠地義光、柿澤 潔、吉村幸代
参加人数	31名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>Q：大規模災害が起きた時、災害対策本部は先ず何をしなくてはいけないと考えているかを聞きたい。施設等の整備も大切だが、情報収集が最も重要だと思う。市内の地区公民館の電話線は1回線のみで、中央公民館だけ2回線、平時でも通じにくいことがあり、増設の必要性を前々から訴えている。職員の携帯電話をあてにしているとも聞いたが、災害時に携帯電話は通じにくい。また、災害対策本部がおかれる市役所庁舎の地盤について、調査したことはあるのか。被災してしまうような場所であることを精査せずに、新庁舎の現地建て替えを決めたのか。</p> <p>A：災害時は電話が使えなくなる恐れがあることから、防災無線を町会長宅や消防団の詰所および部長職以上に配備した。市からの情報は同報系デジタル防災行政無線によって流されるので、それを受けて防災無線で対応することになる。</p> <p>Q：大災害発生後1週間くらいの間は、情報収集が最も重要な仕事となる。無線ですべての対応ができるのか。</p> <p>A：電話回線の適正な本数については把握が難しいかと思われるが、不安の声があることは危機管理部に伝える。我々は執行機関ではないので、ここで明確には答えられないが、本日のご意見は記録を取って、市にしっかりと伝える。市役所庁舎の耐震性に関しては、先日、仮設の事務所整備の際に、パイルを届かせるため予算を増額補正して対応するなどした経緯も踏まえると、しっかりした建物をつくるものと思う。新市立病院は免震構造にするという建設計画が示されたので、新庁舎も免震構造にするのではないかと思う。</p> <p>Q：パイルの構造を知らな過ぎる。市役所庁舎のあたりは、そもそも葦が生えていた沼地だ。パイルは、地盤まで届いた時に初めて有効である。</p> <p>A：パイルがきちんと地盤に届いてこそその免震構造であるということは認識している。</p>

- Q：きちんとやってない所があるから問題なのだ。
- A：それは、市の施設か。（会場から「はい」という声あり。）具体的な指摘があれば、個別に構造を調べる。市庁舎建設についてはまだ設計もできておらず、これからである。
- Q：現地建て替えに反対しているわけではない。調査などに関して、議員はしっかりしないと笑われてしまうとしたい。
- A：貴重なご意見をいただいた。市に伝えるとともに、よく確認する。
- Q：この地域は河川が多い。先般、台風21号が来た際に、薄川の左岸に陥没が見られた。薄川は奈良井川改良事務所（国）の管轄ということは承知しているが、間もなく台風22号が来た。早急に対応する必要があり、どこに言えば良いものかと困った。こうした災害の未然防止や、復旧対応に関するシステムは構築されているのか。未構築の場合には、今後どうしていくのかも聞きたい。
- A：松本砂防事務所、奈良井川改良事務所の関係については、市の建設総務課へ連絡して、強く要請してほしい。
- Q：個別の案件についてではなく、市議会がどう対応してくれるつもりかを聞きたい。水害や地震、火災が発生しそうだと、あるいは、発生した時に、複数の役所による手当てが必要になるが、我々の選んだ議員たちはどのように動いてくれるのか。
- A：市の窓口を通してもらいたい。議員単独ではなく、市議会として、砂防事務所などに働きかける。国会議員、県議会議員にも協力要請して、一致団結して動く。
- Q：その一致団結を、どういふかたちでしていく仕組みなのかを聞いている。市議会は役人をコントロールする力を持っているわけだから、どういう召集をかけて、どういう働きかけをしていくのかを説明してほしい。
- Q：今回、堤防が崩れたが、市から一切の連絡なし。この感覚はおかしいではないか。議員の仕事ではないかもしれないが、確認もせずに、のほほんとしていては困る。情報が伝わったら、動くべきは市であり、県ではないはずだ。しっかりお願いしたい。
- A：現場を見には来たが、その後連絡がないと不安を煽ってしまうことになる。大災害が起きると市長部局で災害対策本部を立ち上げる。予算が絡んでくるので、議会にも召集がかかるはず。議会としても十分な対策がとれるよう対応していく。地元の町会連合会とともに、安全対策に力を入れていく。薄川の件は、確認しておく。

Q：市役所は縦割りで、隣席の人に聞けば分かることでも尋ねない。それを調整するのは誰か。一つの課に伝えれば、その課のみでしか情報が共有されず、その課の人たちの狭い考えだけでしか動かない。国、県も縦割りで、そういう意味では市の職員も可哀想なくらいだ。だから、議員が大切といえる。

A：確かに役所は縦割りといわれているが、最近では、例えば市民相談窓口のように、一本化するかたちで取り組みが進んでいるといった変化もみられる。災害時は身近な議員に要請してほしい。市民の安全・安心を守るために、議会としてもしっかりと取り組んでいく。

Q：子育て中の普通の主婦で、松くい虫防除剤の空中散布に反対している。防除剤の効果について疑問があることに加えて、多くの住民が危惧している松枯れと土砂災害について、空中散布が根本的な解決策とはならないと考えている。一部の地域住民から反対の声が上がり、結果的に裁判にまで発展するなど、この問題が大きくなったのは、行政の対応に問題があったからだ。反対意見の出ない組織をつくり、そうした場で散布を決定し、それを総意として進めてしまうという対応に問題があった。結果、この件を知らずにいた住民が多く存在したことは事実で、この責任は行政にある。空中散布が本当に安全で、人道的にも化学的にも正しいことをしているのなら、市民の心配や不安に正面から向き合えば良いと思う。行政がすべきことをしないで起きたことの責任を、市民に押し付けているのではないか。教育や政治の役割は大きい。きちんとした取り組みをお願いしたい。今春、家族とともに松本市へ移住してきた。情報や知識、学びの上に、「反対」という立場にいる。外から来た者の目だからこそ見え、言えることがある。先入観にとらわれず、行政と市民が支え合い、未来を見据えて発展していく松本市であってほしい。

Q：この場合は防災について話し合う場であり、松枯れ対策について話し合う場とは違うのではないか。信州の豊かな森林が枯れていくのは、非常に寂しい。松枯れ対策もせずに、枯れた松が立っている山を見るのは、信州人としては偲び難い。

A：先の発言者（子育て中の主婦）は、思いを語りたかったのだろう。

Q：地区の防災協議会長を務めており、明日は筑摩小学校で大きな防災訓練を予定している。水害が起きたら高い所へ逃げろというが、指定避難所である筑摩小学校は、A棟とC棟がつながっていないため、いったん階下へおりなければ移ることができない。庄内地区公

民館も避難所で、1階は医療救護所だが、雨が降るとロビーが水浸しになってしまい問題だ。個々の避難所の問題を把握する必要があると感じるが、議員は指定避難所を見に行ったことがあるのか。

A：災害時要援護者優先避難所である公民館について調査を進めている。例えば、中央公民館は6階が避難所だが、エレベーターが止まってしまったら上がれないなど、問題が多い。チェックしながら提言していく。市民の意見を反映していきたい。

Q：庄内地区公民館の1階は医療救護所、2階はトレーニングジムで使えず、住民は3階まで上がっていかなければならないだろう。上がれるのか、上がったのは良いが下りられないのではないか。橋渡しを考えてほしい。あちこちの学校で耐震工事は行ったと思うが、この地区のように水害が想定される場合の対策はどう考えていくのか。動線をどうつくるかが問題ではないか。学校教育課とも、危機管理課とも話し合わねばならない。また、危機管理課だけでなく、市の職員はマンネリ化しているのではないか。避難所運営マニュアルを作るようにと呼びかけている割に、いざ作成について相談に行くと何ら相談にならず、地域の防災リーダーに聞いてくれなどと言われた。防災も福祉も、ある程度のプロフェッショナルな職員が必要だと感じている。議会からも求めていってほしい。

Q：議会には調査権があるのだから、活用してしっかり調べてほしい。先ほど、公民館を回って調べていると言ったが、議員の調査と我々のやろうとしていることにはギャップがある。

A：ギャップとはどういうことか。

Q：庄内地区公民館は、雨が降ると玄関が水浸しになってしまう。水害の時に避難して来いと言われても、水浸し。ここを避難所に指定したのは怠慢ではないか。防災対策になっていないことを、「防災対策をしました」と議会に報告しているのではないか。

A：低い土地にある建物を避難所に指定していることなどについては、きちんと調べてやっていきたいと思う。危機管理課の対応の件は、自衛隊OBを災害専門官として採用するなどして、よくやっているとの評価が高い。避難所運営訓練は、地域によって温度差があるので、あちこちの取り組み事例なども提示できるようにしてはどうかと伝える。

A：前回の議会報告会（河西部西ブロック）の折にも、老朽化した町内公民館の耐震性が問題だという話が出た。松本大学を避難所という要望もあった。庄内地区公民館の避難所としての実情は、町会から市へ訴えてほしい。ここに公民館を建てるということは、ここが

	<p>最適な場所だということで、地区の皆さんの同意を得たものと思う。水浸しになるというのなら、別の建物を避難所にするなど、地域の防災計画は地域の皆さんで考えてほしい。</p> <p>Q：議員の発言は、ここの地域の地形を知らないからだ。天井川の真ん中にある地域、そこに小学校や公民館、宅地がある。水害に備えるなら、防災拠点は3階・4階でないといけないことになる。</p> <p>A：初めて聞いた。やはり地域でよく話し合う必要がある。（不規則発言あり。）</p> <p>Q：議員としてどうなのか、ハザードマップを見たことがあるのか。議員には退席していただいて結構だ。自身の地域だけ見ていれば良いわけではなく、市全体を見てほしい。</p> <p>A：全部の地域を見るのは、なかなか難しい。（不規則発言あり。）</p> <p>Q：その席でそういうことを発言すると、他の議員に迷惑が及ぶのではないか。</p> <p>A：そこの地域に住んでいないと分からない。（不規則発言あり。）</p> <p>Q：自分の地域だけが良ければ、それで良いということか。</p> <p>A：調査権を使ってということだけではなく、それぞれの議員が地域に出向いて実情を知ることが大切だと思う。</p> <p>Q：今日、ここで議会報告会が開催されて議員が席に着く以上は、来る前に、会場がどこで、どういう地区であるか程度のことは把握して来るべきではないか。いろいろな資料があるだろう。議会報告会の席上で一人の議員が発言したことは、市議会全体の意見となってしまう、町会で報告しなければいけなくなってしまう。</p> <p>A：最後にどうしてもこれだけはということがあれば、発言してほしい。</p> <p>Q：松枯れの件だが、市は松枯れ対策の必要性を防災面から強調している。基本的に薬剤散布には反対だが、松枯れした山の西側斜面を見ると、防災対策としての必要性を感じる。議員からも市民に分かりやすく説明してほしい。行政と市民が対立した構図になっているが、間に立って説明し収めるのも議員の役割ではないか。</p> <p>A：私たちの勉強不足もあったが、お聞きしたことは市に伝えるとともに、調査をしながら進めていきたい。今後のご協力をお願いしたい。</p>
--	---

松本市議会議長 様

平成29年11月24日

上記のとおり報告します。

報告者 吉村 幸代

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:53～20:36
開催場所	庄内地区公民館（講座室）
出席議員	阿部功祐、小林弘明、青木豊子、太田更三、井口司朗
参加人数	11名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域公共交通 ）</p> <p>Q:西部地域コミュニティバスや南部循環線をはじめ、松本周遊バス「タウンスニーカー」の運行について市が公表している利用状況は、全体の利用者数であるが、市民の移動手段の確保なのか、観光客の利用促進が目的なのか、教えてほしい。</p> <p>A:基本は市民の移動手段の確保である。タウンスニーカーは、この8月から市が実施主体となって運行本数を増やした結果、8月の利用状況は前年同期の約1.8倍と増えている。観光客の利用も北コースをはじめ確実に増加している。市では市民の利用、観光客の利用、インバウンドの利用等調査をしているので、時期をみて公表されると思う。</p> <p>Q:地域主導型公共交通事業について、運行経費の90%を市が補助し、10%を運賃や地元負担で確保することとなっているが、850万円という限度額を見直して欲しい。</p> <p>A:波田循環バスへの補助が150万円であったことを思うと、大きな進展である。地域主導型公共交通は、地域の住民に支えてもらうことが大前提である。「ほしみ線」も地域で支えることを前提に名付けられた経緯がある。運賃や地元負担で全体の1割分を賄わなければいけないという意識を大事にしてもらうことが基本にあるので、100%市が負担するから運行してください、というようにはいかないのではないか。</p> <p>Q:現在の地元負担はどうなっているのか。</p> <p>A:今のところ、運賃だけで地元負担はない。町会の役員を中心に利用している。中山線のバスは定員9名のため、タクシーを増便させており、その費用もかかっている。1便当たりでほしみ線は4名、中山線は3名以上利用すればペイできる。</p> <p>Q:現状の市の補助額では、中山線は平日のみの運行しかできないので、土日祝日の運行もできればよい。また、アルピコ交通の既存の路線バスとの関係があり、曜日によっては松本駅に乗り入れられない状況の改善を要望する。</p>

	<p>A:ほしみ線では土日にも運行するように地元で検討しているが、運転手の賃金も割増になるため、なかなか難しい。「乗って残そう公共交通」ということから地域住民の理解と協力が必要。現状、タウンズニーカーの運賃は200円であり、地域主導型公共交通の運賃300円とは差がある。200円で運行できるようにするなら、市の補助を増やすのか、あるいは地元負担を求めるのかが課題であることは、議員も認識しておく必要がある。公共交通を利用しない住民にも地域の問題であるという意識をどれだけ浸透させられるか。松本駅への乗り入れについては、議員も認識して柔軟な対応を求めているかなければならない。アルピコ交通が路線バスを廃止したところを、今後市営バスとしてやっていくべきなのかという点も含めて、将来の公共交通のあり方を考えていく必要がある。</p> <p>Q:市議会議員は市をみているのか、住民をみているのか。市議会の役割はどうか。</p> <p>A:市民の意見、要望を聞き、市政に反映させていくにあたり、優先順位をつけるなかで、市民の皆さんに理解を求める場面はある。</p> <p>Q(議員):庄内地区の住民の方はバスの利用はどうか。</p> <p>A(参加者):自転車移動しているため、大雪が降った時に利用することはあるが、ルートや停留所の場所もよく理解していない。</p> <p>Q(議員):イオンモール松本開店による交通渋滞はどうか。</p> <p>A(参加者):並柳から松本秀峰までの間は、特に土日祝日、雨の日は動かない。</p> <p>A(参加者):国体道路を経由する通過車両を松本トンネルの無料化で市内に入らないようすべき。</p> <p>A(議員):市内全体の道路整備のなかで現状では難しい。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年11月19日

上記のとおり報告します。

報告者 井口 司朗

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:53～20:34
開催場所	庄内地区公民館（工作室）
出席議員	上條美智子、中島昌子、犬飼信雄、池田国昭、若林真一
参加人数	7名
意見交換	<p>テーマ名（ 若者の参加 ）</p> <p>政治参加、地域参加があるが、最初に政治参加の観点から話を進めたい。</p> <p>Q：若者の定義は幾つなのか。</p> <p>A：15歳から30歳代としたい。</p> <p>意見：18歳選挙権というのは大きな出来事。投票率も高く重要だと思う。</p> <p>Q：30代は投票率が上がっているが、19歳や20歳の投票率が低いのをどう考えるか。</p> <p>A：大学生は松本市に住所はあるが、県外の大学に行っている人もいるので投票が難しいこともあるのではないか。</p> <p>A：18歳選挙権になって間もないのに投票率が高いのは素晴らしい。団塊の世代は凝り固まった考えでは良くない。若い人たちに今後チャンスやそのような場を提供していかなくてはいけない。</p> <p>意見：新庁舎建設に向けて未来志向型とあるが、若者の意見を取り入れてほしい。</p> <p>意見：高校生の請願は素晴らしいと思うので、そのような生徒達を伸ばして行ってほしい。</p> <p>議員：授業の一環で議員が学校へ出向いている。若者の声を聞くという姿勢を示していくことに議会として取り組んでいる。</p> <p>請願後は、一般質問等で継続してチェックも行っているところ。</p> <p>Q：若者が何を考えているかわからないと決めつけがちだが、そうとは言え色々考えていると思うがどうでしょうか。</p> <p>A：口に出すことはなくなっているような気がするが、SNS等では発信や交流をしている若者はいる。</p> <p>Q：おっしゃる通りのデータがある。地域でもSNSの発信に関心を寄せてはどうか。民生委員の皆さんどうですか。</p> <p>A：大人が小中高校生と話さないといけないと思う。</p> <p>A：子どもたちがスマートフォン中心のスタイルになっていて安易に情報を得て、安易に行動する姿が見受けられる。対人間で自ら接していかないと理解が難しい。</p>

	<p>A：民生委員をやるような歳になるとスマートフォンを使いこなせない。</p> <p>A：選挙権も含めて社会参加ということを明確に位置付けてないから中高生の雪かき等の社会参加が見られないようになった。子どもにも責任を持たせることが大人の責任。</p> <p>A：昔は雪かきも親が早起きして行っていたが、アパート等の住人はおろそかになっているような気がする。高齢者より子どもの方が力があるのでやらせるのも必要ではないか。</p> <p>意見：政治問題にしても報道に偏りがあり、その内容は子どもの生き方にも影響してくる。報道機関にも議員から意見をしてほしい。</p> <p>A：主権者教育も充実をさせていく話がある。議会からも公平な報道をということで意見を出している。</p> <p>意見：子どもには若い親がいるので、その親が市政に関心を持つような仕組みにしてほしい。</p> <p>Q：マンション周辺の雪かきにマンションの住民の協力が乏しく、雪は解けるから雪かきをしないという考えがあるようだ。いざ雪が降ると困るようなのでマンションの住民も協力する仕組みの構築をお願いしたい。</p> <p>A：町会から話をするのは難しいと思うので、管理人に入居の条件に雪かきを入れてもらうようにしたらいいのではないか。</p> <p>A：そうとは言え自分達がそういった姿を若者に見せていくのも必要ではないかと思う。</p> <p>A：現実の子育て世代は働くことに精いっぱい雪かきどころではないように感じる。</p> <p>Q：地域に興味を湧くようにするには何かありますか。</p> <p>A：学校主体の催しなら動きやすいのではないか。</p> <p>意見：防犯灯は町会管理だとしっかり町会の方に伝えてほしい。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年11月24日

上記のとおり報告します。

報告者 若林 真一